

平成30年度前期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6	あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7	教員の説明は明快でしたか
		8	教員の話は良く聞き取れましたか
		9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 からの 質 問	環 境 ・ 設 備 等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

この授業改善報告書は、一般教養科目138コマ(前回＝前年度前期109コマ)、回答者数9307名(前回9272名)を対象としている。評価は前年度と前々年度のそれぞれ前期と比較すると、全体として横ばいないし、緩やかに右肩上がりの傾向を示している。肯定的評価(A+B)はほぼすべての項目で9割を超えており、好ましい状況と評価できる。これに届かなかったNo.3の授業外での学習状況86.4%と、No.11の参考図書の図書館所蔵87.8%が全開に引き続き、今回も課題である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.9 (4)	9.8 (10)	24.5 (25)	38.2 (39)	13.7 (14)	6.9 (7)	2.9 (3)	0.0 (0)	[学生] No.4の到達目標の達成以外は、肯定的評価が微減したが、下げ幅は1以下に留まり、No.3の課外学習以外は肯定的評価が9割を超えているため、大きな問題とは考えられない。微減はむしろ、学生が自らを厳しく振り返ることができている証左とみるべきかもしれない。課題となっている授業外の学習を充実させるために、予習を前提とした授業運営の徹底を推進したい。
	0.0 (0)	6.9 (7)	18.6 (19)	37.3 (38)	30.4 (31)	6.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	2.9 (3)	5.9 (6)	13.7 (14)	25.5 (26)	14.7 (15)	13.7 (14)	12.7 (13)	8.8 (9)	2.0 (2)	
	1.0 (1)	10.8 (11)	13.7 (14)	17.6 (18)	23.5 (24)	28.4 (29)	4.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.0 (2)	10.8 (11)	12.7 (13)	21.6 (22)	15.7 (16)	13.7 (14)	16.7 (17)	5.9 (6)	1.0 (1)	
	3.9 (4)	10.8 (11)	24.5 (25)	26.5 (27)	21.6 (22)	12.7 (13)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.0 (2)	6.9 (7)	10.8 (11)	26.5 (27)	26.5 (27)	12.7 (13)	10.8 (11)	2.9 (3)	0.0 (0)	1.0 (1)	
	1.0 (1)	0.0 (0)	2.9 (3)	18.6 (19)	23.5 (24)	34.3 (35)	16.7 (17)	2.0 (2)	1.0 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.9 (5)	8.8 (9)	20.6 (21)	35.3 (36)	17.6 (18)	9.8 (10)	1.0 (1)	[授業[内容]] いずれも肯定的評価が微増している。これは教員が以前よりもシラバスの記載内容を意識し、聞き手の理解度に配慮した講義を展開している結果と考えられる。
	2.0 (2)	12.7 (13)	18.6 (19)	35.3 (36)	22.5 (23)	7.8 (8)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.0 (1)	2.9 (3)	3.9 (4)	13.7 (14)	13.7 (14)	20.6 (21)	16.7 (17)	11.8 (12)	11.8 (12)	3.9 (4)	
	3.9 (4)	11.8 (12)	16.7 (17)	21.6 (22)	30.4 (31)	13.7 (14)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.0 (1)	2.0 (2)	2.9 (3)	4.9 (5)	12.7 (13)	15.7 (16)	23.5 (24)	15.7 (16)	12.7 (13)	8.8 (9)	[授業[教え方等]] No.9の微減以外は肯定的評価が向上しており、授業の質向上が窺われる。一層の向上に向けて教員の創意工夫が期待される。同時にそのための教養教育全体のデザインが必要である。今年度からの教養科目カリキュラム見直しに当たり、科目の分類・系統化を適切に行い、効果的な教え方が活かされる魅力的な教養教育のあり方を考えたい。
	9.8 (10)	15.7 (16)	22.5 (23)	23.5 (24)	20.6 (21)	7.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.0 (1)	1.0 (1)	3.9 (4)	3.9 (4)	9.8 (10)	18.6 (19)	17.6 (18)	23.5 (24)	9.8 (10)	10.8 (11)	
	11.8 (12)	14.7 (15)	23.5 (24)	27.5 (28)	16.7 (17)	5.9 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.0 (1)	2.9 (3)	2.0 (2)	4.9 (5)	14.7 (15)	16.7 (17)	24.5 (25)	13.7 (14)	10.8 (11)	8.8 (9)	
	10.8 (11)	10.8 (11)	22.5 (23)	28.4 (29)	20.6 (21)	5.9 (6)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	5.9 (6)	11.8 (12)	16.7 (17)	27.5 (28)	22.5 (23)	9.8 (10)	3.9 (4)	[環境・設備等] いずれも肯定的評価が向上しているが、参考図書の充実については意識的に図書館への関連図書の購入リクエストを促進し、肯定的評価が9割を超えることを目標としたい。
	4.9 (5)	19.6 (20)	27.5 (28)	34.3 (35)	11.8 (12)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.0 (1)	5.9 (6)	16.7 (17)	17.6 (18)	35.3 (36)	18.6 (19)	2.9 (3)	1.0 (1)	1.0 (1)	
	2.0 (2)	5.9 (6)	15.7 (16)	34.3 (35)	27.5 (28)	14.7 (15)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教養科目のここ数年における経年変化は、肯定的評価の向上という点において望ましい傾向である。ここから学生の教養科目に対する興味・関心は一般に言われるほど低くない印象が引き続き窺われる。ただ、一般教養科目にはキャリア科目や留学準備科目、留学生科目、体育実技といった独特の科目が含まれるため、改善のための具体的方針を立てるためには、分野別に精査が必要であると考えられる。

4.今後の方針

来年度から実施される教養教育のカリキュラム見直しにより、学生にとって魅力的な内容の科目を充実させ、全体として多彩でバランスのとれた構成を維持することが課題である。コマ減により、大規模で一方的な講義方式の科目ばかりにならないよう、教養科目の分類・系統化を行い、本学らしい教育スタイルとしての少人数教育による教養教育を並存させるように努めたい。

1.概評
AとBを合わせた肯定的評価はここ数年と変わらず90%台を維持しており、おおむね良好な授業が提供できたと考える。毎年度を比較するとわずかな増減はあるが高い評価を得られていると思う。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.9 (2)	9.5 (21)	21.8 (48)	17.7 (39)	25.0 (55)	8.6 (19)	8.6 (19)	5.5 (12)	2.3 (5)	[学生] 問1と問4はこのところ80%台が続いているが、問1に関しては前年度に比べて3ポイント弱下がっている。授業前にシラバスの確認をすることは学生にとっては必須のことであり、各学科で学生に対する指導を徹底する必要がある。
	3.6 (8)	9.1 (20)	16.4 (36)	25.5 (56)	29.5 (65)	10.9 (24)	4.5 (10)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.5 (1)	0.5 (1)	3.6 (8)	12.7 (28)	13.6 (30)	21.8 (48)	20.9 (46)	17.3 (38)	7.7 (17)	1.4 (3)	
	1.8 (4)	7.7 (17)	17.3 (38)	27.7 (61)	22.3 (49)	15.9 (35)	5.9 (13)	1.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.5 (1)	1.8 (4)	2.7 (6)	8.6 (19)	13.6 (30)	25.0 (55)	22.3 (49)	16.4 (36)	7.7 (17)	1.4 (3)	
	2.3 (5)	9.1 (20)	20.9 (46)	32.3 (71)	19.5 (43)	13.6 (30)	1.4 (3)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	4.5 (10)	14.5 (32)	20.0 (44)	17.3 (38)	14.5 (32)	15.5 (34)	5.5 (12)	5.0 (11)	1.8 (4)	1.4 (3)	
	2.3 (5)	1.4 (3)	5.5 (12)	12.7 (28)	17.7 (39)	28.2 (62)	22.7 (50)	7.3 (16)	1.8 (4)	0.5 (1)	
5	0.5 (1)	0.5 (1)	2.7 (6)	7.3 (16)	10.5 (23)	20.9 (46)	22.3 (49)	20.9 (46)	8.6 (19)	5.9 (13)	[授業[内容]] 問6は前年度に比べてA評価が広がっている。授業内容を理解するためには丁寧に教えるだけでなく、かならず課題を出して復習をさせ、次の授業に備えることが必須である。各教員にはわかりやすい授業であるとともに厳しい授業を心がけてもらうようお願いしたい。
	6.8 (15)	10.0 (22)	22.7 (50)	22.3 (49)	19.5 (43)	13.2 (29)	4.1 (9)	0.9 (2)	0.5 (1)	0.0 (0)	
6	0.5 (1)	2.7 (6)	7.7 (17)	8.6 (19)	16.8 (37)	19.5 (43)	18.2 (40)	15.5 (34)	8.6 (19)	1.8 (4)	
	3.2 (7)	10.0 (22)	18.2 (40)	20.9 (46)	23.2 (51)	19.1 (42)	5.0 (11)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.9 (2)	0.9 (2)	4.5 (10)	6.4 (14)	5.0 (11)	13.6 (30)	18.2 (40)	20.5 (45)	16.4 (36)	13.6 (30)	[授業[教え方等]] 全般的に高い評価を得られている。ただ、個々の教員別にみると、否定的評価の割合が多い教員も見受けられる。ネイティブスピーカーの講師は日本語の問題があり、難しいところではあるが、ネイティブを含めて各教員に明快な説明をお願いしたい。
	13.6 (30)	20.0 (44)	23.6 (52)	21.8 (48)	9.1 (20)	10.0 (22)	1.4 (3)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.5 (1)	1.8 (4)	2.7 (6)	5.5 (12)	4.5 (10)	13.2 (29)	17.3 (38)	20.0 (44)	17.7 (39)	16.8 (37)	
	18.2 (40)	21.8 (48)	22.7 (50)	17.3 (38)	12.7 (28)	6.4 (14)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.4 (3)	1.4 (3)	5.0 (11)	6.4 (14)	5.9 (13)	16.4 (36)	20.5 (45)	18.6 (41)	17.3 (38)	7.3 (16)	
	9.5 (21)	19.5 (43)	23.6 (52)	21.8 (48)	14.5 (32)	7.7 (17)	3.2 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	3.2 (7)	11.4 (25)	21.8 (48)	27.7 (61)	24.5 (54)	10.9 (24)	[環境・設備等] 問10と問11では、問11の方がB評価の方が高かった。これはここ数年の傾向ではある。参考図書の充実は学生の学習意欲を高めるためにも必要であり、各教員は授業に必要な図書を積極的に図書館に要望して欲しい。
	15.9 (35)	23.6 (52)	30.5 (67)	18.2 (40)	8.2 (18)	3.6 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.4 (3)	3.2 (7)	9.1 (20)	18.2 (40)	22.7 (50)	24.1 (53)	12.7 (28)	7.7 (17)	0.9 (2)	0.0 (0)	
	4.1 (9)	5.9 (13)	11.4 (25)	21.8 (48)	28.2 (62)	20.0 (44)	7.3 (16)	0.9 (2)	0.5 (1)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

外国語の学習に楽な方法はなく、地道に勉強を続けていくしかない。教員はその手助けをしていかなければならないが、各教員に対する評価等を参照するとおおむねそれにそった教育がなされていると感じる。今後も、初級外国語だけではなく、さらに次のステップに学生が進めるよう担当教員全員で工夫、努力をしていく必要がある。

4.今後の方針

来年度から履修必要単位数が学科によって減少となるため、外国語のコマ数は大幅に減少する。来年度の履修者数によってはさらにクラスを再編する必要が生じそうである。学習効果を上げるためにも適正な人数のクラスを確保していく。人数は多すぎても少なすぎてもうまくいかない。

1.概評

すべての質問項目で肯定的評価が94%を上回っており、全体としては良好であると言える。学生との双方向的な授業により、主体的に学べるものになっている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	12.5 (3)	12.5 (3)	33.3 (8)	20.8 (5)	16.7 (4)	0.0 (0)	【学生】 前学期と同様、シラバスの確認や授業外学習は概ね定着してきている。授業への積極的関わりについても、学生が参加できる場面の多い授業展開が実現していると思われる。他方で「到達目標の達成」については、「達成」したかどうかが具体的に分かるような、目標設定と授業内容の構成、そして学生の自己評価の方法を一層明確にしていく必要がある。
	0.0 (0)	8.3 (2)	41.7 (10)	33.3 (8)	8.3 (2)	8.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	29.2 (7)	16.7 (4)	20.8 (5)	29.2 (7)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	16.7 (4)	41.7 (10)	8.3 (2)	29.2 (7)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (3)	16.7 (4)	25.0 (6)	12.5 (3)	29.2 (7)	4.2 (1)	
	4.2 (1)	16.7 (4)	33.3 (8)	33.3 (8)	8.3 (2)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (3)	12.5 (3)	16.7 (4)	16.7 (4)	20.8 (5)	20.8 (5)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.2 (1)	37.5 (9)	20.8 (5)	16.7 (4)	16.7 (4)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	20.8 (5)	20.8 (5)	20.8 (5)	33.3 (8)	4.2 (1)	【授業[内容]】 教職科目は、理論と実践の両方をバランス良く扱う必要がある。とりわけ各教科教育法は、必ずしも教職を目指していない学生にとっても教育実習を行うための重要な科目であり、学習指導案や授業実践について、十分に学ぶことができるようにしなければならない。
	4.2 (1)	25.0 (6)	33.3 (8)	20.8 (5)	16.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	16.7 (4)	12.5 (3)	25.0 (6)	25.0 (6)	16.7 (4)	
	16.7 (4)	12.5 (3)	37.5 (9)	12.5 (3)	20.8 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	4.2 (1)	8.3 (2)	45.8 (11)	20.8 (5)	16.7 (4)	【授業[教え方等]】 教え方については大きな問題はないと考えるが、マイクの声が大きすぎる、パワーポイント資料が不十分であるといった指摘が出ている授業もある。このようなことは普段から授業の中で、学生の声を拾うことで解決できるものである。日常的な形で学生からのフィードバックを受ける姿勢が重要である。
	20.8 (5)	16.7 (4)	37.5 (9)	16.7 (4)	4.2 (1)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	20.8 (5)	25.0 (6)	29.2 (7)	20.8 (5)	
	16.7 (4)	33.3 (8)	25.0 (6)	16.7 (4)	8.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (1)	29.2 (7)	20.8 (5)	37.5 (9)	8.3 (2)	
	8.3 (2)	37.5 (9)	20.8 (5)	20.8 (5)	12.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (2)	16.7 (4)	29.2 (7)	33.3 (8)	12.5 (3)	【環境・設備等】 前学期と同様に人数に対して教室が広すぎるなどといったコメントが見られた。難しい面もあるが、できるだけ人数に適した教室が使用できることが望ましい。図書館の資料については否定的回答が若干多かった。授業内容と学生のニーズに合う資料の整備を行う。
	12.5 (3)	37.5 (9)	25.0 (6)	20.8 (5)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (3)	12.5 (3)	33.3 (8)	16.7 (4)	20.8 (5)	4.2 (1)	
	4.2 (1)	25.0 (6)	33.3 (8)	20.8 (5)	12.5 (3)	4.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職に関する科目は非常勤講師の担当が多く、日常的な連絡が難しい状況にはあるが、各々の担当者が専門性を発揮して充実した授業を行っている。

4.今後の方針

後期のはじめに非常勤講師向けに配布する「授業運営についてのお願い」の中で、授業内容や学生指導についてのお願いを追加する。また常勤教員間、常勤教員と非常勤教員の間で、より一層情報の共有を行い、個々の学生の実態と進路志望に応じたきめ細かな指導ができるようにする。また履修指導も一層充実させ、授業の登録漏れなどが起きないように配慮する。

1.概評
11項目のうち、8項目で大学全体の評価を上回った。特に、no.7～9、11は、学生の評価が平均よりも1ポイント以上高い。昨年度との比較では、大きく下回った科目はない。また、アンケートを実施した106科目で、A+Bの平均が70ポイントを下回る科目はなく、80科目で90ポイントを超えている。一方で、否定的評価も数%程度見られた。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	7.5 (8)	17.0 (18)	32.1 (34)	21.7 (23)	16.0 (17)	2.8 (3)	[学生] いずれも、肯定評価が約93～97%である。シラバスの確認は大学全体平均より3.0ポイント上回り、年々、確認する学生が増えている。no.2の取り組みも、全体より0.2ポイント上回っているが、その一方で、課題への取り組みや到達目標は、全体より0.3ポイント下回った。シラバスの確認は、年々、上昇している。全体としては、積極的な取り組みをしていると言えるが、いわゆる学生の二極化傾向が考えられる。
	4.7 (5)	16.0 (17)	34.0 (36)	30.2 (32)	11.3 (12)	3.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.9 (1)	0.0 (0)	3.8 (4)	4.7 (5)	10.4 (11)	24.5 (26)	18.9 (20)	17.9 (19)	10.4 (11)	8.5 (9)	
	9.4 (10)	10.4 (11)	17.9 (19)	27.4 (29)	21.7 (23)	8.5 (9)	3.8 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.9 (1)	2.8 (3)	1.9 (2)	9.4 (10)	15.1 (16)	23.6 (25)	21.7 (23)	16.0 (17)	8.5 (9)	
	9.4 (10)	17.0 (18)	33.0 (35)	22.6 (24)	11.3 (12)	5.7 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.9 (2)	2.8 (3)	2.8 (3)	15.1 (16)	18.9 (20)	33.0 (35)	13.2 (14)	8.5 (9)	3.8 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	7.5 (8)	6.6 (7)	24.5 (26)	29.2 (31)	23.6 (25)	5.7 (6)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	3.8 (4)	12.3 (13)	23.6 (25)	24.5 (26)	19.8 (21)	13.2 (14)	[授業[内容]] 肯定評価が、no.5は平均で96.1（大学全体96.8）、no.6は95.0（大学全体94.4）であった。授業はシラバス通りに行われているといえる。授業を理解については、昨年度前期よりも0.8ポイント上昇しているが、学科独自の授業の難易度を尋ねた項目（有効回答率が約70%）で、肯定評価が約62%で、否定評価が約5%、否定評価のうち「難」が約8%、「易」が約19%であった。これらのことから、5～8%程度の学生が、授業を難しいと感じていると言え、二極化する中でどのような授業運営をするかが課題になるかと思われる。
	13.2 (14)	20.8 (22)	31.1 (33)	23.6 (25)	9.4 (10)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.9 (2)	3.8 (4)	2.8 (3)	8.5 (9)	18.9 (20)	18.9 (20)	21.7 (23)	16.0 (17)	7.5 (8)	[授業[教え方等]] 肯定評価が95%以上で、いずれの項目も大学全体のポイントより高い。昨年度前期との比較では、no.6が-0.1、no.7およびno.8が+0.4であった。アンケートを実施した106科目のうち、肯定評価が100%の科目数は、no.7が64科目、no.8が65科目、no.9が59科目であった。これらの科目に、古典文学／近代文学／言語、スキル系／非スキル系、必修／非必修などの偏りはなく、また、学科独自の授業から刺激を受けたかどうかを尋ねた項目も有効回答率67%のうち、64%が肯定評価で、全体としては良い結果であると言える。ただし、否定的評価が50%近い科目もないわけではないので、no2 no3 no6などへの取り組みも考えつつ、課題としたい。
	9.4 (10)	16.0 (17)	22.6 (24)	25.5 (27)	17.9 (19)	5.7 (6)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.9 (1)	0.9 (1)	3.8 (4)	1.9 (2)	3.8 (4)	6.6 (7)	13.2 (14)	24.5 (26)	17.0 (18)	27.4 (29)	
	27.4 (29)	19.8 (21)	27.4 (29)	14.2 (15)	6.6 (7)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	
8	0.9 (1)	0.0 (0)	0.9 (1)	3.8 (4)	2.8 (3)	8.5 (9)	12.3 (13)	20.8 (22)	19.8 (21)	30.2 (32)	
	28.3 (30)	26.4 (28)	21.7 (23)	15.1 (16)	6.6 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	
9	0.9 (1)	1.9 (2)	0.9 (1)	2.8 (3)	5.7 (6)	6.6 (7)	17.9 (19)	20.8 (22)	21.7 (23)	20.8 (22)	
	20.8 (22)	19.8 (21)	29.2 (31)	20.8 (22)	3.8 (4)	4.7 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	1.9 (2)	2.8 (3)	7.5 (8)	21.7 (23)	19.8 (21)	23.6 (25)	21.7 (23)	[環境・設備等] 肯定評価が昨年度前期よりそれぞれ0.2ポイント下回ったが、全体では大学平均を上回っている。環境や設備については、良好と言える。図書館資料については、肯定評価は低くても70%台であり、これらはスピーチや実技系の科目であるので、授業担当者とも相談しつつ、図書の充実を考えたい。
	22.6 (24)	26.4 (28)	33.0 (35)	11.3 (12)	5.7 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (2)	10.4 (11)	24.5 (26)	30.2 (32)	18.9 (20)	8.5 (9)	5.7 (6)	
	7.5 (8)	12.3 (13)	27.4 (29)	38.7 (41)	10.4 (11)	3.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

授業への参加の度合い（積極的な取り組み、授業外での学習）が課題であったが、徐々にポイントが上がってきている。これらはB評価のほう
が、A評価より高い傾向があり、学科の特性といえるかもしれない。学科独自の、授業の難易度を尋ねる質問項目からは、適当であることが分
析できる。

4.今後の方針

全体としては、肯定的評価が高く、これを持続・より向上させたい。学科独自の、授業から刺激を受けたかという質問項目で、肯定的評価を
する学生が約64%（有効回答率67% 否定的評価 約4%）で、この数値を上げることが、学習意欲の向上に結びつけることができるのではな
いかと思われる。

1.概評

細かいところでの改善点はあるにしても、数字をみると、全体的な評価は高く、個々の授業についても満足度は高い。ただ、前年度からの課題であった設備面での評価が、今期も低い。引き続き、図書館への専門図書設置を要望していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤<10	10≤<20	20≤<30	30≤<40	40≤<50	50≤<60	60≤<70	70≤<80	80≤<90	90≤≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (3)	15.4 (12)	34.6 (27)	28.2 (22)	11.5 (9)	5.1 (4)	1.3 (1)	[学生] 歴史文化学科の学生はおおむね授業態度も良く、特に自分の専門とする科目についてはしっかりと取り組んでいる。ただし授業における到達目標について不明確な授業もあったというアンケートがあったので、授業開始時から明確にするようにしていきたい。
	1.3 (1)	5.1 (4)	21.8 (17)	34.6 (27)	29.5 (23)	7.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	1.3 (1)	0.0 (0)	2.6 (2)	7.7 (6)	25.6 (20)	21.8 (17)	19.2 (15)	10.3 (8)	6.4 (5)	5.1 (4)	
	3.8 (3)	5.1 (4)	15.4 (12)	21.8 (17)	28.2 (22)	21.8 (17)	2.6 (2)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
3	1.3 (1)	1.3 (1)	2.6 (2)	9.0 (7)	11.5 (9)	15.4 (12)	26.9 (21)	19.2 (15)	10.3 (8)	2.6 (2)	
	3.8 (3)	9.0 (7)	25.6 (20)	26.9 (21)	20.5 (16)	11.5 (9)	2.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.3 (1)	3.8 (3)	7.7 (6)	15.4 (12)	29.5 (23)	23.1 (18)	9.0 (7)	7.7 (6)	2.6 (2)	0.0 (0)	
	1.3 (1)	1.3 (1)	7.7 (6)	12.8 (10)	26.9 (21)	33.3 (26)	14.1 (11)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.1 (4)	2.6 (2)	28.2 (22)	37.2 (29)	14.1 (11)	9.0 (7)	3.8 (3)	[授業[内容]] 授業については「おもしろい」「わかりやすい」などの意見が多く見られた。学生の知的好奇心を刺激することはとても大切なことなので、今後も継続していきたいと考える。一部の授業でシラバス通りに行われていないという指摘があった。授業は学期始めにおけるシラバスの説明通り行われるように各教員に依頼をしていきたい。
	5.1 (4)	9.0 (7)	17.9 (14)	41.0 (32)	20.5 (16)	5.1 (4)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	9.0 (7)	0.0 (0)	17.9 (14)	23.1 (18)	23.1 (18)	15.4 (12)	10.3 (8)	1.3 (1)	
	1.3 (1)	10.3 (8)	20.5 (16)	28.2 (22)	26.9 (21)	7.7 (6)	3.8 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	3.8 (3)	5.1 (4)	16.7 (13)	34.6 (27)	15.4 (12)	9.0 (7)	10.3 (8)	[授業[教え方等]] アンケートの中で、授業について、「難しい」「レベルを下げて欲しい」という要望もあった。わかりにくい説明などについては改善を依頼していきたい。もっとも、歴史文化学科の専門科目は他学科生が一般教養として取れる科目が多いため、専門科目でも難易度についてはやさしい方に合わせるというよりも専門科目なのだから専門性を高めることが出来る授業となるのは仕方がない。また実習系の科目で、授業内での指示が明確でなかったという意見もあったので、改善を依頼していく。
	11.5 (9)	7.7 (6)	23.1 (18)	33.3 (26)	16.7 (13)	6.4 (5)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	6.4 (5)	14.1 (11)	32.1 (25)	16.7 (13)	16.7 (13)	9.0 (7)	
	9.0 (7)	14.1 (11)	28.2 (22)	30.8 (24)	15.4 (12)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.3 (1)	2.6 (2)	5.1 (4)	7.7 (6)	24.4 (19)	26.9 (21)	10.3 (8)	12.8 (10)	9.0 (7)	
	12.8 (10)	9.0 (7)	20.5 (16)	33.3 (26)	16.7 (13)	7.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.3 (1)	2.6 (2)	1.3 (1)	5.1 (4)	26.9 (21)	24.4 (19)	23.1 (18)	11.5 (9)	3.8 (3)	[環境・設備等] 狭い、寒いなどの意見に対しては、なるべく要望に応じていきたい。ただ教室の広さや三人掛けかどうか、という点は施設運営上、難しい場合もあるので、授業時間割などを考慮しながら、担当教員へ依頼をしていきたい。
	5.1 (4)	12.8 (10)	34.6 (27)	35.9 (28)	9.0 (7)	2.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.3 (1)	3.8 (3)	11.5 (9)	21.8 (17)	30.8 (24)	24.4 (19)	5.1 (4)	1.3 (1)	0.0 (0)	
	1.3 (1)	3.8 (3)	12.8 (10)	41.0 (32)	29.5 (23)	10.3 (8)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

歴史文化学科は、一つの学問を地道にこつこつと行い卒業論文にまで結びつけることが出来る学生が多い。これを支える専門科目についても学生の需要を考えながら科目も設定していく必要がある。また必修科目に対する評価が低い。これは多様な問題関心・学問分野を持つ学生に対して、一つの学問分野を教えていこうとするものの限界があると捉えている。必修科目については早急に改善を図っていく必要がある。

4.今後の方針

学生のニーズと学問的な意義をそれぞれ考えながら、カリキュラムを組んでいきたいと考える。

1.概評

今回の回答集計では、Aの回答比率、A+Bの回答比率で全体集計結果を上回っており、概ね良好と考えられる。しかしながら、シラバス通りの授業実践という問6ではC+Dが全体集計結果よりも0.2ポイント上回っており、授業運営の点で改善の余地があると考えている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	2.2 (4)	2.2 (4)	7.8 (14)	12.8 (23)	17.9 (32)	18.4 (33)	14.5 (26)	11.7 (21)	12.3 (22)	[学生] Aの回答を見ると、問1(シラバス確認)で全学平均の6.8%、問2(授業内の積極的取組)で9.7%、問3(授業外学習)で10.7%、問4(到達目標達成)で10.4%上回っており、学生がしっかりと学習をし、到達目標に達成していたと自己評価していることがわかる。本学科は本年度より必修英語の授業の内容を見直し、よりアカデミックな英語を学ぶようになっていることが授業外学習に関する自己評価に影響を与えたのではないかと考えられる。C+Dの否定的評価も全学平均を下回っていることから、真剣に取り組んでいないと自己評価する学生が少ないこともわかる。
	11.2 (20)	16.2 (29)	17.9 (32)	25.7 (46)	17.9 (32)	10.1 (18)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.6 (1)	1.1 (2)	5.6 (10)	5.6 (10)	11.2 (20)	20.1 (36)	25.1 (45)	18.4 (33)	12.3 (22)	
	12.8 (23)	20.1 (36)	24.6 (44)	23.5 (42)	10.6 (19)	7.3 (13)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.6 (1)	1.1 (2)	0.6 (1)	4.5 (8)	13.4 (24)	15.1 (27)	20.1 (36)	27.9 (50)	16.8 (30)	
	19.0 (34)	28.5 (51)	23.5 (42)	17.3 (31)	7.3 (13)	3.9 (7)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.1 (2)	2.8 (5)	6.1 (11)	10.1 (18)	12.8 (23)	18.4 (33)	14.0 (25)	14.5 (26)	10.6 (19)	9.5 (17)	
	8.4 (15)	10.6 (19)	20.1 (36)	16.2 (29)	16.8 (30)	19.0 (34)	6.7 (12)	1.7 (3)	0.6 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.1 (2)	2.2 (4)	1.1 (2)	3.9 (7)	14.0 (25)	13.4 (24)	19.6 (35)	22.9 (41)	21.8 (39)	[授業[内容]] 問5(シラバス通りの授業)、問6(学生の内容理解)については、A評価が全体集計結果を上回っているが、問5のA+B評価両方が全体集計結果と同じであり、問5のC+D評価も全体平均より0.2ポイント悪い。特定科目で問5への評価が悪い傾向があるため、授業コーディネーターとも話し合う予定である。
	21.8 (39)	24.6 (44)	20.7 (37)	19.0 (34)	8.4 (15)	3.9 (7)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.6 (1)	2.2 (4)	6.7 (12)	4.5 (8)	15.6 (28)	12.8 (23)	21.2 (38)	15.6 (28)	20.7 (37)	
	20.1 (36)	20.1 (36)	20.1 (36)	19.0 (34)	14.5 (26)	5.6 (10)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.6 (1)	1.7 (3)	4.5 (8)	3.9 (7)	4.5 (8)	11.2 (20)	7.3 (13)	20.7 (37)	17.9 (32)	27.9 (50)	[授業[教え方等]] 問7(教員の説明の明快さ)、問8(教員の話の聞き取りやすさ)、問9(授業進行の効果性)すべてでA+B評価が全体集計結果を上回っていたことはよかったと思われる。その一方で、問8、問9のA評価が全体集計結果を平均を下回っている(それぞれ0.8ポイント、1.4ポイント)点については、改善の余地がある。英語科目を教えているという特性から、問7、問8で高評価をえるのは難しいと言えるが、特定科目で評価がそれほど高くない傾向がある。評価が際立って低い担当教員と話し合うと共に、授業コーディネーターとも話し合う予定である。
	26.8 (48)	22.9 (41)	18.4 (33)	17.3 (31)	8.4 (15)	5.0 (9)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.6 (1)	2.2 (4)	2.2 (4)	3.4 (6)	2.8 (5)	11.7 (21)	9.5 (17)	17.3 (31)	19.6 (35)	30.7 (55)	
	29.6 (53)	22.3 (40)	21.2 (38)	13.4 (24)	6.1 (11)	5.0 (9)	2.2 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.6 (1)	3.4 (6)	2.8 (5)	4.5 (8)	5.0 (9)	12.3 (22)	8.9 (16)	21.2 (38)	16.8 (30)	24.6 (44)	
	24.0 (43)	21.2 (38)	25.7 (46)	12.3 (22)	8.9 (16)	6.1 (11)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.6 (1)	1.1 (2)	0.6 (1)	2.2 (4)	9.5 (17)	12.3 (22)	22.9 (41)	27.9 (50)	22.9 (41)	[環境・設備等] 学習環境、図書館の設問ともにA、A+Bの肯定的評価は全学平均を上回っており、学生は学習環境と設備について満足していることが伺える。
	30.7 (55)	26.8 (48)	22.3 (40)	14.0 (25)	3.9 (7)	1.1 (2)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.7 (3)	1.7 (3)	6.1 (11)	5.0 (9)	15.6 (28)	27.4 (49)	15.6 (28)	13.4 (24)	13.4 (24)	
	15.6 (28)	17.3 (31)	24.0 (43)	20.1 (36)	11.7 (21)	8.9 (16)	1.1 (2)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

今学期の評価の特徴として、特定科目において評価が低めになる傾向が見受けられた。アカデミックな内容の英語を教えるに当たって教材の変更を行い、厳しめに教えることにしたこともその要因と思われる。授業コーディネーターの指示のもと、現状を把握して授業の質を上げるためのミーティングを行うなど、学科全体で教育の質を上げていくことが必要である。

4.今後の方針

今年度は学内プロジェクト予算を頂いてアカデミックな内容の英語を教えるよう、必修英語の方向性を変えた。それに伴い、集中授業の前には出版社の担当者に来校してもらい教え方に関するFDを開催した。今後とも教育の質を高めるためFDの開催を検討するとともに、「教え方等」で評価の悪い教員に対しては授業見学を行い、抱えている問題点を共有して授業運営を改善していきたい。

1.概評

学科ではそれぞれの選択言語に対応する留学先が整い、各言語の選択人数も平均的になりつつあり、留学前の学びをサポートする休み中の集中講座なども軌道にのってきている。全ての設問に対する回答が、引き続き90%以上という高い肯定率を維持しているが、それに甘んじることなく、気を引き締めて学生をサポートしていきたい。

考察										
no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100
1	0.0 (0)	2.3 (3)	3.8 (5)	16.7 (22)	12.1 (16)	18.2 (24)	15.9 (21)	17.4 (23)	10.6 (14)	3.0 (4)
	4.5 (6)	12.1 (16)	20.5 (27)	27.3 (36)	20.5 (27)	14.4 (19)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
2	0.0 (0)	0.8 (1)	5.3 (7)	7.6 (10)	7.6 (10)	22.7 (30)	18.2 (24)	17.4 (23)	15.9 (21)	4.5 (6)
	4.5 (6)	15.2 (20)	23.5 (31)	20.5 (27)	23.5 (31)	9.1 (12)	3.8 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
3	0.0 (0)	0.8 (1)	1.5 (2)	7.6 (10)	8.3 (11)	17.4 (23)	22.0 (29)	20.5 (27)	15.9 (21)	6.1 (8)
	6.8 (9)	14.4 (19)	26.5 (35)	28.8 (38)	12.1 (16)	9.8 (13)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
4	0.8 (1)	3.0 (4)	11.4 (15)	11.4 (15)	15.2 (20)	20.5 (27)	15.9 (21)	15.2 (20)	4.5 (6)	2.3 (3)
	1.5 (2)	4.5 (6)	22.0 (29)	14.4 (19)	21.2 (28)	28.8 (38)	7.6 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
5	0.0 (0)	0.8 (1)	3.0 (4)	4.5 (6)	8.3 (11)	15.2 (20)	20.5 (27)	18.2 (24)	18.9 (25)	10.6 (14)
	10.6 (14)	16.7 (22)	25.8 (34)	23.5 (31)	14.4 (19)	7.6 (10)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
6	0.0 (0)	1.5 (2)	5.3 (7)	8.3 (11)	5.3 (7)	21.2 (28)	15.2 (20)	18.9 (25)	15.9 (21)	8.3 (11)
	9.1 (12)	13.6 (18)	27.3 (36)	22.0 (29)	19.7 (26)	6.1 (8)	2.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
7	0.8 (1)	2.3 (3)	4.5 (6)	6.1 (8)	3.0 (4)	6.1 (8)	20.5 (27)	16.7 (22)	23.5 (31)	16.7 (22)
	16.7 (22)	27.3 (36)	22.0 (29)	22.0 (29)	6.1 (8)	6.1 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
8	0.0 (0)	3.0 (4)	3.8 (5)	3.8 (5)	4.5 (6)	9.1 (12)	18.9 (25)	18.9 (25)	18.9 (25)	18.9 (25)
	18.2 (24)	24.2 (32)	23.5 (31)	20.5 (27)	7.6 (10)	5.3 (7)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
9	0.8 (1)	2.3 (3)	3.0 (4)	8.3 (11)	3.8 (5)	12.9 (17)	14.4 (19)	22.7 (30)	15.9 (21)	15.9 (21)
	16.7 (22)	18.9 (25)	25.0 (33)	23.5 (31)	10.6 (14)	4.5 (6)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
10	0.0 (0)	0.8 (1)	0.8 (1)	2.3 (3)	4.5 (6)	12.1 (16)	16.7 (22)	26.5 (35)	22.7 (30)	13.6 (18)
	20.5 (27)	26.5 (35)	26.5 (35)	18.2 (24)	4.5 (6)	2.3 (3)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
11	0.0 (0)	1.5 (2)	1.5 (2)	8.3 (11)	8.3 (11)	22.7 (30)	23.5 (31)	18.2 (24)	10.6 (14)	5.3 (7)
	9.8 (13)	12.1 (16)	25.8 (34)	30.3 (40)	13.6 (18)	6.8 (9)	0.0 (0)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

留学が必修になっており、そのコースは選択した英語外の言語によって決まるが、選択した語学が違ってもお互いに刺激しあって勉強しているようである。

4.今後の方針

学生のモチベーションを高め、学習意欲を後押ししていく環境を整えていきたい。

1.概評
今回の報告書では97科目を対象とし、有効回答者数は2,539名。全般的に学生の肯定的評価が減少している。その背景として考えられるのは、①新カリキュラムの導入により1年次の英語科目を学習内容ごとに細分化させたこと（文法などを独立させた）、②平成30年度入学生（1年生）の入学時偏差値が57.5と急上昇していることなどが考えられる。①により昨年よりも学習内容が明確化した分、1年生にとって授業が難化したこと、さらに②により例年よりも自己評価が厳しく評価が低くなり、それによって全体平均点が下がった可能性がある。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	4.1 (4)	11.3 (11)	17.5 (17)	17.5 (17)	17.5 (17)	16.5 (16)	6.2 (6)	5.2 (5)	4.1 (4)	[学生] ①シラバスの閲覧、②講義の取り組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標、のいずれにおいても、昨年同期に比べ減少している。特に、①のシラバスの閲覧においては6ポイント減と際立っており、減少の顕著な科目を見ると、1年次開講科目である基礎ゼミ、英語、コンピューティングであった。②の講義の取り組み姿勢だけは横ばいで、例年通りの積極性を示していることから、自己評価に厳しい新入生が大学の初学期を緊張をもって過ごしたことが窺える。しかし全体のボリュームゾーンに変化は見られなかった。
	5.2 (5)	10.3 (10)	18.6 (18)	27.8 (27)	27.8 (27)	9.3 (9)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	2.1 (2)	4.1 (4)	11.3 (11)	11.3 (11)	20.6 (20)	22.7 (22)	17.5 (17)	5.2 (5)	5.2 (5)	
	5.2 (5)	5.2 (5)	26.8 (26)	17.5 (17)	22.7 (22)	15.5 (15)	6.2 (6)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	
3	1.0 (1)	1.0 (1)	2.1 (2)	7.2 (7)	11.3 (11)	24.7 (24)	20.6 (20)	17.5 (17)	7.2 (7)	7.2 (7)	
	8.2 (8)	12.4 (12)	19.6 (19)	30.9 (30)	16.5 (16)	9.3 (9)	2.1 (2)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.1 (2)	8.2 (8)	9.3 (9)	14.4 (14)	17.5 (17)	20.6 (20)	10.3 (10)	6.2 (6)	5.2 (5)	6.2 (6)	
	7.2 (7)	6.2 (6)	9.3 (9)	13.4 (13)	19.6 (19)	30.9 (30)	9.3 (9)	2.1 (2)	2.1 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.0 (1)	2.1 (2)	8.2 (8)	8.2 (8)	19.6 (19)	18.6 (18)	19.6 (19)	13.4 (13)	9.3 (9)	[授業[内容]] ⑤シラバス記載内容の実質化は昨年よりも1.2ポイント減、⑥授業内容の理解は横ばいであったが、肯定度合いの低い科目は、英文法や経済学などいずれも1年次対象科目であった。全体のボリュームゾーンに変化は見られなかった。
	11.3 (11)	11.3 (11)	21.6 (21)	24.7 (24)	15.5 (15)	13.4 (13)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	3.1 (3)	3.1 (3)	8.2 (8)	10.3 (10)	21.6 (21)	17.5 (17)	19.6 (19)	9.3 (9)	7.2 (7)	
	8.2 (8)	8.2 (8)	24.7 (24)	24.7 (24)	18.6 (18)	12.4 (12)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	2.1 (2)	1.0 (1)	5.2 (5)	6.2 (6)	10.3 (10)	8.2 (8)	13.4 (13)	18.6 (18)	17.5 (17)	17.5 (17)	[授業[教え方等]] ⑦教員の説明、⑧聞き取りやすさ、⑨講義の進め方のいずれにおいても肯定度合いが低かった科目は、英文法や経済学。今後、学生にとって初めての大学レベルの授業であることを考慮する必要があるかもしれない。一方、質保証の観点からは、英語も経済学も当学科の基盤科目であり、レベルを下げずに到達度を上げるべきで、実践において決して簡単ではない課題である。。
	17.5 (17)	13.4 (13)	27.8 (27)	19.6 (19)	8.2 (8)	10.3 (10)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	4.1 (4)	2.1 (2)	8.2 (8)	5.2 (5)	13.4 (13)	12.4 (12)	15.5 (15)	19.6 (19)	19.6 (19)	
	21.6 (21)	19.6 (19)	16.5 (16)	19.6 (19)	9.3 (9)	8.2 (8)	5.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.0 (1)	2.1 (2)	6.2 (6)	6.2 (6)	8.2 (8)	13.4 (13)	15.5 (15)	16.5 (16)	12.4 (12)	18.6 (18)	
	17.5 (17)	13.4 (13)	24.7 (24)	16.5 (16)	15.5 (15)	7.2 (7)	4.1 (4)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	1.0 (1)	1.0 (1)	2.1 (2)	0.0 (0)	8.2 (8)	11.3 (11)	19.6 (19)	26.8 (26)	12.4 (12)	17.5 (17)	[環境・設備等] ⑩学習環境については約3ポイント減となっているが、自由記述によると、私語が多い、教室が寒いなど、教員と学生で対応可能なことも多く見受けられた。⑪参考書の充実については英語（文法や英作文、IELTS対策）であった。
	21.6 (21)	22.7 (22)	27.8 (27)	17.5 (17)	6.2 (6)	2.1 (2)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.0 (1)	3.1 (3)	6.2 (6)	9.3 (9)	12.4 (12)	19.6 (19)	23.7 (23)	10.3 (10)	9.3 (9)	5.2 (5)	
	13.4 (13)	13.4 (13)	24.7 (24)	23.7 (23)	16.5 (16)	5.2 (5)	0.0 (0)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

特に設定していない。

4.今後の方針

今年度から導入した新カリキュラムの意図は、①英語においては学習内容を細分化しフォーカスを明確にすること、②3つのトラックを強調した履修モデルにシフトすることであった。②は未開講科目が多くその影響はまだ測れないが、①については1年次の英語で如実に反応が出た。今後はこの結果を有効に活用すべく、語学担当非常勤教員を交えて学科内FDを開催したい。

また、1年次基礎ゼミに導入した「タクナル」は特徴が際立っているためか自由記述欄のコメントも多い。新しい手法の授業に驚き、シラバスを参照していないことへの自己反省が強く出た一方、授業での取り組みは極めて積極的であり、学習上の刺激を提供できたという点において、「タクナル」導入は成功といえる。担当教員からは後期へ向けて一層の工夫を試みたいとの報告があることからさらなる期待ができる。

1.概評

今回のアンケート結果は概ね肯定的であったと、受け止めている。ただし、シラバスを確認していない学生がいること、時間外学習時間の確保が必要であること、科目間で評価にばらつきがあることなどの課題も見つかった。

今後は、今回の結果を踏まえてA評価の割合を高めていく。

なお、会計ファイナンス学科は新設学科であるため、今回は経年変化の分析は行っていないが、次年度以降は経年変化も注視していく。

2.各質問の評価とその考察											
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。											
（上段がA評価、下段がB評価）											
no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	4.3 (1)	17.4 (4)	30.4 (7)	39.1 (9)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] 問1に対する肯定的回答の割合が他項目に比べてやや低いことが見て取れる。このことからシラバスで授業内容をあまり確認していない学生がいるものと思われる。会計ファイナンス学科は1年生のみであり、学科の必修科目が多いことからシラバスを事前に確認していない学生が多いものと推察されるが、オリエンテーション等でシラバスを確認する旨を周知することとしたい。 次に、問4に対する肯定的回答が若干低めである。先に述べたシラバスを確認していないことも関係すると思われるが、到達目標を事前に確認していない可能性が考えられる。シラバスにより科目ごとの到達目標を確認した上で、時間外学習の時間を増やすように指導することで、多くの学生が到達目標を達成できるようにしたい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	26.1 (6)	26.1 (6)	43.5 (10)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	17.4 (4)	8.7 (2)	21.7 (5)	30.4 (7)	17.4 (4)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	21.7 (5)	17.4 (4)	30.4 (7)	21.7 (5)	8.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	26.1 (6)	21.7 (5)	17.4 (4)	17.4 (4)	17.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	21.7 (5)	30.4 (7)	43.5 (10)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	13.0 (3)	17.4 (4)	17.4 (4)	26.1 (6)	21.7 (5)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	17.4 (4)	34.8 (8)	43.5 (10)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	8.7 (2)	13.0 (3)	0.0 (0)	43.5 (10)	26.1 (6)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業内容に関する項目については、肯定的な回答（A+B）の割合が9割を超えているが、科目間で多少のばらつきが見られる。今後は、科目間のばらつきをなくしていくとともに、よりA評価の割合を高めていく必要がある。
	0.0 (0)	4.3 (1)	13.0 (3)	30.4 (7)	34.8 (8)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	4.3 (1)	8.7 (2)	13.0 (3)	17.4 (4)	17.4 (4)	30.4 (7)	8.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	17.4 (4)	30.4 (7)	34.8 (8)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	4.3 (1)	0.0 (0)	13.0 (3)	13.0 (3)	0.0 (0)	13.0 (3)	17.4 (4)	30.4 (7)	8.7 (2)	0.0 (0)	[授業[教え方等]] 教え方に関する項目については、授業内容に関する項目と同様に、肯定的な回答（A+B）の割合が9割を超えているが、科目間でばらつきが見られる。科目間のばらつきをなくしていくとともに、今後は、よりA評価の割合を高めていく必要がある。
	0.0 (0)	8.7 (2)	30.4 (7)	26.1 (6)	17.4 (4)	8.7 (2)	8.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	21.7 (5)	4.3 (1)	17.4 (4)	8.7 (2)	30.4 (7)	13.0 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	13.0 (3)	30.4 (7)	34.8 (8)	8.7 (2)	13.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.3 (1)	8.7 (2)	17.4 (4)	4.3 (1)	13.0 (3)	21.7 (5)	21.7 (5)	8.7 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	8.7 (2)	26.1 (6)	34.8 (8)	13.0 (3)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	13.0 (3)	21.7 (5)	39.1 (9)	17.4 (4)	4.3 (1)	4.3 (1)	[環境・設備等] 環境・設備等に関する項目については、肯定的な回答（A+B）の割合が9割を超えているが、参考図書に関する項目が相対的に低めである。会計ファイナンス学科は新設学科であり、いまだ十分に図書館に参考図書が揃っていない可能性が考えられるので、今後の課題としたい。
	4.3 (1)	8.7 (2)	34.8 (8)	34.8 (8)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	17.4 (4)	26.1 (6)	30.4 (7)	17.4 (4)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.3 (1)	13.0 (3)	39.1 (9)	30.4 (7)	8.7 (2)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

会計ファイナンス学科は新設学科であるため、経年変化を分析することはできない。ただ、今回の結果を見る限り、概ね肯定的な評価を得ていると思われる。ただし、先に述べたとおり、科目間で評価にばらつきが見られる。また、学科集計結果は全体集計結果よりも全体的にやや低めの評価である。このことは回答した学生の要因（全体的に低めに回答する傾向）なのか、学科の要因かは現時点では不明である。次年度以降に経年変化を分析するなど、注視していきたい。

4.今後の方針

先に述べたとおり、概ね高い評価であったと考えている。今後はA評価の割合を高めていく。
具体的には、オリエンテーション等でシラバスを確認することを再度周知していく。また、時間外学習の時間を確保できるように、特に必修科目において課題を課したり、授業時間外で学習できる環境を整えたい。
さらに、授業における科目間でのばらつきをなくすように、この評価結果を学科内で共有する。

1.概評

いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%を超える高い値を示し、学生の授業態度、教員の授業運営の双方が良好であることが確認できた。引き続き授業運営の改善に取り組み、学生の主体的な学びを促していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (2)	30.3 (10)	42.4 (14)	21.2 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%以上で、ほとんどの学生が積極的に授業に参加し、授業外学習に取り組んだことがわかる。ただし、授業外の学習（設問No.3）に関する評価は科目間で若干のばらつきが見られた。授業内容や履修者数によって授業外学習を促すことが困難な科目もあるが、それぞれに工夫を促していきたい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	12.1 (4)	27.3 (9)	54.5 (18)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	18.2 (6)	27.3 (9)	18.2 (6)	27.3 (9)	6.1 (2)	3.0 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.0 (1)	6.1 (2)	33.3 (11)	33.3 (11)	24.2 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (2)	6.1 (2)	12.1 (4)	30.3 (10)	33.3 (11)	9.1 (3)	3.0 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.1 (2)	24.2 (8)	30.3 (10)	33.3 (11)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.0 (1)	0.0 (0)	9.1 (3)	24.2 (8)	42.4 (14)	18.2 (6)	0.0 (0)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	3.0 (1)	18.2 (6)	63.6 (21)	9.1 (3)	0.0 (0)	3.0 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	9.1 (3)	33.3 (11)	36.4 (12)	6.1 (2)	9.1 (3)	3.0 (1)	[授業[内容]] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%以上で、授業内容に関する評価も良好で会った。科目間もばらつきは小さく、各科目でシラバスに沿った授業を展開し、学生も授業内容をよく理解したことがわかる。
	3.0 (1)	9.1 (3)	12.1 (4)	45.5 (15)	27.3 (9)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	15.2 (5)	24.2 (8)	30.3 (10)	12.1 (4)	12.1 (4)	3.0 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.1 (2)	12.1 (4)	21.2 (7)	45.5 (15)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (2)	15.2 (5)	36.4 (12)	24.2 (8)	6.1 (2)	9.1 (3)	3.0 (1)	[授業[教え方等]] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%以上で、教え方に関する評価も良好で会った。昨年度は「説明の明快さ」（設問No.7）に科目間のばらつきが見られたが、本年度はどの科目も非常に高い評価を得た。それぞれの担当教員が、明快な説明のための工夫を行っていることがうかがえる。
	3.0 (1)	12.1 (4)	9.1 (3)	36.4 (12)	36.4 (12)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.1 (4)	21.2 (7)	39.4 (13)	15.2 (5)	9.1 (3)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	9.1 (3)	30.3 (10)	42.4 (14)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	18.2 (6)	39.4 (13)	24.2 (8)	9.1 (3)	6.1 (2)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	6.1 (2)	27.3 (9)	36.4 (12)	27.3 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (3)	18.2 (6)	39.4 (13)	24.2 (8)	3.0 (1)	6.1 (2)	[環境・設備等] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%以上で、環境・設備についての評価も高かった。ただし、学習環境（設問No.10）については評価の低い科目があり、これらの科目では履修者数に対して教室が狭いことが原因と考えられる。
	6.1 (2)	9.1 (3)	30.3 (10)	45.5 (15)	9.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (2)	27.3 (9)	39.4 (13)	24.2 (8)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	12.1 (4)	39.4 (13)	39.4 (13)	3.0 (1)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

昨年同様、必修科目群（6科目）と選択科目群（16科目）について肯定的評価の割合の比較を行った。「到達目標」（No.4）「積極性」（No.2）では、選択科目に比べて必修科目の評価が若干低い傾向があった。必修科目が、多様な関心をもち、基礎学力にばらつきのある学生に一定レベルの力をつけさせることを目的とする科目であることを考えると、やむを得ない結果といえるかもしれない。

一方、昨年度は「聞き取りやすさ」（No.8）「説明の明快さ」（No.7）「進め方」（No.9）の項目において、必修科目の評価が低い傾向があったが、本年度は両群に差がみられず、いずれの群も高い評価を得た。授業運営の難しい必修科目において、担当教員の工夫による改善がなされたことがわかる。

4.今後の方針

全体として、各授業担当者が授業改善に取り組み、授業評価も高まっていることがわかった。これまで同様、授業改善に取り組むとともに、TA制度などを利用して学生の基礎学力の個人差の問題などに対応していきたい。また、学習環境に対する評価に対応するため、履修者人数に応じた教室の確保に努めたい。

1.概評

本学科のアンケート実施科目95科目（回答者数2,829名）の集計結果、肯定的な評価の割合は全ての項目において全体平均を上回っている。また、ほとんどの項目において昨年度同期に比べ肯定的な評価の割合が上昇している。さらに、到達目標の達成度や授業運営、教員の説明、授業の進め方については、過去3年間で最も高い肯定的評価を示している。学生の理解度の向上や学科教員による授業の進め方等への工夫が反映された結果といえる。今後は教員間でこれらの授業改善に向けた良い取り組みに関する情報を共有し、より良い学習環境の整備に取り組んでいく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (4)	5.3 (5)	17.9 (17)	23.2 (22)	25.3 (24)	10.5 (10)	9.5 (9)	4.2 (4)	[学生] 肯定的評価は、前年度同期に比べ、問1（シラバスの確認）が0.6ポイント、問2（授業への参加度）が0.6ポイント、問3（授業外での学習）が0.8ポイント減少しているものの、いずれも95%以上の肯定的評価であった。プロジェクト型学習の導入により、学生の主体的な学習姿勢が定着したものと考えられる。また、問4（到達目標の達成度）の肯定的評価率（95.7%）は、科目全体においては向上がみられるが、資格取得関連の一部の指定科目においては若干の課題がみられる。資格養成に求められる到達目標（ガイドライン）に沿った授業内容の展開とともに、学生の自己評価としての到達目標の達成度の向上にも目を向けた授業内容への工夫が求められる。
	3.2 (3)	14.7 (14)	13.7 (13)	27.4 (26)	23.2 (22)	13.7 (13)	3.2 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (6)	4.2 (4)	13.7 (13)	18.9 (18)	24.2 (23)	14.7 (14)	13.7 (13)	4.2 (4)	
	3.2 (3)	12.6 (12)	23.2 (22)	24.2 (23)	17.9 (17)	12.6 (12)	3.2 (3)	2.1 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	4.2 (4)	5.3 (5)	8.4 (8)	9.5 (9)	22.1 (21)	23.2 (22)	20.0 (19)	7.4 (7)	
	6.3 (6)	21.1 (20)	28.4 (27)	21.1 (20)	13.7 (13)	5.3 (5)	3.2 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.1 (1)	2.1 (2)	8.4 (8)	13.7 (13)	18.9 (18)	23.2 (22)	14.7 (14)	10.5 (10)	5.3 (5)	2.1 (2)	
	2.1 (2)	5.3 (5)	10.5 (10)	18.9 (18)	24.2 (23)	21.1 (20)	11.6 (11)	5.3 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (3)	3.2 (3)	5.3 (5)	14.7 (14)	23.2 (22)	27.4 (26)	13.7 (13)	9.5 (9)	[授業[内容]] 問5の（シラバスに記載された内容で進めている）の肯定的評価は97.4%で、問6（授業内容の理解）は95.4%を占めており、教員の授業運営に関する肯定的評価率は過去3年間の同期と比較しても最も高い。今後も個々の学生の理解度を高めていくための授業内容への工夫が求められる。
	7.4 (7)	15.8 (15)	29.5 (28)	21.1 (20)	20.0 (19)	3.2 (3)	3.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.1 (1)	2.1 (2)	1.1 (1)	3.2 (3)	12.6 (12)	26.3 (25)	21.1 (20)	13.7 (13)	10.5 (10)	8.4 (8)	
	6.3 (6)	9.5 (9)	28.4 (27)	17.9 (17)	26.3 (25)	9.5 (9)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.1 (1)	2.1 (2)	3.2 (3)	8.4 (8)	18.9 (18)	18.9 (18)	21.1 (20)	13.7 (13)	12.6 (12)	[授業[教え方等]] 問7（教員の説明の明快さ）の肯定的評価率は95.7%、問8（教員の話の聞き取りやすさ）は95.8%、問9（授業の進め方）は94.9%であった。特に、問7と問9は過去3年間の同期に比べ、肯定的評価が高い。学科の非常勤講師懇談科会等でも、FDを兼ねて授業の進め方に関する情報を共有しているが、今後も分かりやすい授業の進め方に関する工夫が求められる。
	9.5 (9)	20.0 (19)	23.2 (22)	21.1 (20)	18.9 (18)	5.3 (5)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.1 (1)	0.0 (0)	2.1 (2)	2.1 (2)	9.5 (9)	16.8 (16)	15.8 (15)	22.1 (21)	16.8 (16)	13.7 (13)	
	11.6 (11)	21.1 (20)	26.3 (25)	21.1 (20)	12.6 (12)	5.3 (5)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.1 (2)	3.2 (3)	2.1 (2)	8.4 (8)	21.1 (20)	17.9 (17)	22.1 (21)	10.5 (10)	12.6 (12)	
	9.5 (9)	17.9 (17)	27.4 (26)	16.8 (16)	18.9 (18)	7.4 (7)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	4.2 (4)	5.3 (5)	34.7 (33)	25.3 (24)	13.7 (13)	14.7 (14)	[環境・設備等] 問10（授業環境）の肯定的評価（95.9%）及び問11（参考書の整備）の肯定的評価（94.7%）は、全体平均を上回っており、一定の授業環境は保たれていると考えられるが、さらに適正人数での授業運営に努めていく。また、学科の資料室の活用を含めて、学生が参考資料を実際に活用できるよう周知していく。
	11.6 (11)	20.0 (19)	36.8 (35)	25.3 (24)	5.3 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	4.2 (4)	9.5 (9)	25.3 (24)	24.2 (23)	18.9 (18)	8.4 (8)	7.4 (7)	
	6.3 (6)	13.7 (13)	29.5 (28)	20.0 (19)	21.1 (20)	7.4 (7)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では福祉社会の構築に求められるリーダーシップやコーディネーターとしての力を習得するという方針から、学科必修科目として1年次からプロジェクト型科目を配当している。導入当初の学生からの意見としては、授業の進め方等において課題がみられたが、その間授業内容の改善を図り、今年度は昨年度同期に比べ、授業内容の理解度や授業の進め方、教員の説明の仕方などの改善がみられ、高い肯定的評価が得られた。この結果を反映し、今後は2年次以降のプロジェクト型科目の授業内容の改善に向けて検討を行っていく必要がある。

また、社会福祉士や精神保健福祉士、言語聴覚士の国家試験の合格率向上に向け、各資格の受験指定科目においては資格取得に必要な知識の教授のため、適宜補講を実施するなど、きめ細やかな指導を心掛けているが、科目間や学生間において学生の理解度のバラつきがみられる。資格取得と関わる進路に対する具体的な目標設定ができるよう、資格取得の動機付けを行うとともに、前向きな学習意欲を引き出すことができるよう、授業内容の改善を図っていく。

4.今後の方針

- 1) キャリア教育の充実
学科科目の中でも医学系や理系科目において、授業の到達目標の達成度が低い傾向がある。これらの科目を履修する意味や資格取得に必要な適性を見極めた入学動機の確認や進路指導を合わせて行っていく。
- 2) 学科共通科目と連動した資格養成カリキュラムの充実
資格養成に関わる指定科目はガイドラインに沿った授業内容を組み立てる必要があるが、指定科目以外の学部共通科目や学科共通科目の場合は授業担当者の専門領域に応じた柔軟な授業展開ができ、学生から「楽しかった」「（このような）授業を増やしてほしい」等の声がある。資格科目の履修のみならず、現在開講している学科共通科目と資格科目との連動という観点から、学科共通科目の履修を通して資格関連科目の理解をさらに深めてもらうこともできる。今後もこのような学科独自のカリキュラム編成を行っていく。また、今後の効率的な授業運営を図るために、各資格関連分野の授業改善アンケートの傾向を授業担当者へフィードバックするなど、学科教員による授業運営に関するマネジメント機能を担う体制を強化する。
- 3) 学科内のFDの充実
学科内のFDの充実を図るために、非常勤講師懇談科会や学科教員間で、授業の進め方等に関する研修情報等の共有を活発に行っていく。

1.概評

前期開設科目115科目（内図書館学課程同時開設 6科目含む）、回答者数4150人のアンケート結果である。いずれの設問でも肯定的評価（A+B）の割合の平均が94%以上(94.0～97.8%）と高い値を示し、学生の授業態度、教員の授業運営ともに良好であることが確認できた。また、改善の余地の少ない問10以外のすべての項目で昨年度同期と比べてもわずかであるが上回っており（最小 問1 0.4%↑ / 最大 問7 1.4%↑）、学科としての取り組みが功を奏している。引き続き、 1）学生へのカリキュラム体系の周知を徹底し、学生の科目履修への動機付けを明確にする。 2）非常勤講師も含めた教員間での授業公開やオープンセミナーの実施など、互いの授業の関係性や方向性を確認しあう。 3）FDの機会には学科として積極的に参加し、常に授業内容の向上を図る。以上3点に取り組んでいく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.4 (7)	16.5 (18)	29.4 (32)	31.2 (34)	11.0 (12)	1.8 (2)	3.7 (4)	[学生] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は、「問1：シラバスによる事前確認」については、94.1%であり、昨年度の93.7%をわずかながら上回っているが、ほぼ前年度並みである。シラバスの活用がより一般化してきている様子が見てとれる。「問2：授業での積極的取り組み」は、肯定的評価の平均が96.3%となっており、昨年度同期の0.5%増であるが、ほぼ現状維持となっている。全般的な取り組みは改善が見られるが、取組みの状況が非常に良い授業も前年度同期と比べてわずかに減っており、積極・上位層を伸ばす授業の工夫も必要だと考えられる。「問3：授業外での学習」は、肯定的評価の平均が95.3%で、昨年度同期からは0.7%増である。こちらも回答の傾向としては、前年度同期と比べてA評価割合のばらつきが少なく、非常に評価が高い授業はわずかに減っている。このことから、積極・上位層を伸ばす授業の工夫という前問と共通の課題が見て取れる。最後の「問4：到達目標の達成」であるが、肯定的評価の平均は94.7%で、前年度同期からは0.7%増で、やはり同様にA評価割合のばらつきが少ない。以上のことから、全体的に学生の取り組みは向上しているが、積極・上位層をさらに伸ばす工夫が必要であると考えられる。
	3.7 (4)	3.7 (4)	19.3 (21)	39.4 (43)	24.8 (27)	8.3 (9)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.1 (11)	16.5 (18)	20.2 (22)	23.9 (26)	17.4 (19)	9.2 (10)	1.8 (2)	
	1.8 (2)	9.2 (10)	19.3 (21)	25.7 (28)	26.6 (29)	15.6 (17)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	
3	0.9 (1)	0.0 (0)	3.7 (4)	1.8 (2)	6.4 (7)	22.0 (24)	26.6 (29)	20.2 (22)	14.7 (16)	3.7 (4)	
	3.7 (4)	17.4 (19)	27.5 (30)	27.5 (30)	15.6 (17)	6.4 (7)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.9 (1)	1.8 (2)	9.2 (10)	11.9 (13)	26.6 (29)	26.6 (29)	12.8 (14)	8.3 (9)	0.9 (1)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	2.8 (3)	11.0 (12)	14.7 (16)	25.7 (28)	31.2 (34)	10.1 (11)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	4.6 (5)	21.1 (23)	26.6 (29)	27.5 (30)	11.9 (13)	5.5 (6)	[授業[内容]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「問5：授業がシラバスに記載された内容で行われたか」で、97.8%と非常に高い値（昨年度同期比 0.4%増）を示している。教員へのシラバス順守は継続して徹底できていると考えられる。「問6：授業内容の理解」は94.2%で昨年度同期比で1.0%増となっている。A評価回答割合のばらつきは昨年度同期とほぼ同じレベルで、上記の分析と総合すると学生のレベルの向上の結果ではないかと推察できる。学生の学力レベルをよく観察しつつ、教員間での情報共有や連携を図ることが重要である。
	4.6 (5)	15.6 (17)	26.6 (29)	34.9 (38)	12.8 (14)	4.6 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	5.5 (6)	6.4 (7)	15.6 (17)	22.9 (25)	19.3 (21)	14.7 (16)	12.8 (14)	2.8 (3)	
	2.8 (3)	11.0 (12)	19.3 (21)	25.7 (28)	29.4 (32)	10.1 (11)	0.0 (0)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	8.3 (9)	8.3 (9)	15.6 (17)	19.3 (21)	18.3 (20)	18.3 (20)	9.2 (10)	[授業[教え方等]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「問7：教員の説明の明快さ」で94.9%、昨年度同期から1.4%増えており最も伸びた項目である。ただし、A評価回答の割合のばらつきが、昨年度同期と同様に最も大きな項目であり、情報交換を継続的に行いつつ、教員それぞれが、常に創意工夫をもって引き続き授業に取り組むべきだと考えられる。また「問8:教員の話がよく聞き取れたか」の肯定的評価の平均は96.0%であり、昨年度同期比で0.7%増である。問7と同様にA評価回答割合のばらつきが大きく教員個人の努力が求められる。最後に「問9:授業の進め方は効果的だったか」については、肯定的評価の平均が94%となっており、昨年度同月比で0.5%増で昨年度とほぼ変わらない結果となっている。
	8.3 (9)	23.9 (26)	16.5 (18)	31.2 (34)	14.7 (16)	4.6 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.8 (3)	10.1 (11)	16.5 (18)	19.3 (21)	19.3 (21)	19.3 (21)	12.8 (14)	
	12.8 (14)	21.1 (23)	21.1 (23)	32.1 (35)	9.2 (10)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	9.2 (10)	10.1 (11)	22.9 (25)	18.3 (20)	17.4 (19)	11.9 (13)	8.3 (9)	
	9.2 (10)	15.6 (17)	20.2 (22)	29.4 (32)	16.5 (18)	7.3 (8)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	18.3 (20)	30.3 (33)	19.3 (21)	22.0 (24)	8.3 (9)	[環境・設備等] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「問10：学習環境の良好さ」で95.6%で、全体的に向上する中、昨年度同期と同じ水準である。引き続き、学園全体として教室環境の向上が望まれる。（0.1%増）「問11：参考図書が図書館に揃っている」の肯定的評価の割合平均は94.0%で、昨年度同期比で0.5%増となっている。学科関連書籍の蔵書の拡充が、満足度の底上げにつながっていると考えられる。
	11.9 (13)	20.2 (22)	33.9 (37)	27.5 (30)	6.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	17.4 (19)	29.4 (32)	22.9 (25)	17.4 (19)	8.3 (9)	2.8 (3)	
	3.7 (4)	11.0 (12)	22.0 (24)	33.0 (36)	23.9 (26)	6.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、Active Learning(AL), Project Based Learning(PBL)など、参加型授業の拡充を進めており、それに関連した教員間での情報交換や取り組みも盛んである。ただし、ここ数年間指摘してきた点であるが、それに対応した教室の不足は解消されおらず、それが学習環境の評価が伸びない一因となっているのではないだろうか。また、全体的な肯定評価の割合は微増しているが、A評価の割合が非常に多い授業は、全般的に減少傾向にある。この一因となっているのが、学生の多様化であると考えられ、こうした状況への対応が急務となっている。

4.今後の方針

多様化する学生の動向を、教員一人一人がしっかりと捉え、各々のニーズやレベルなどに対応するための授業の工夫を教員間でも共有し、各授業に反映させていきたい。そのためにも、引き続き授業公開やオープンセミナーなど、学科教員間での交流の設定し、議論の中で、学科全体としての授業のレベルを高めていきたい。また、学生へのカリキュラムや授業の説明の機会や内容も充実させていく必要があると考えられる。近年の教員の多忙化なども視野に入れ、作成中のカリキュラムツリーなども活用し、量よりも伝達の質を意識した改善に今後取り組んでいきたい。

1.概評

引き続き、すべての項目で肯定的評価が9割5分前後を維持しており、大きな変化は見られない。昨年、唯一95%を切っている質問1の「シラバスで授業内容を確認しましたか」は92.1%から92.4%へ若干の改善が見られた。授業内でのシラバス確認を徹底したい。また全体を見ると質問4の「あなたはシラバスに示された到達目標を達成しましたか」のみA評価が下がるので、学生の目標到達への努力を促し、授業者間も課題として情報を共有したい。再課程認定等により、科目（内容を含む）や担当者の変更が続くので、評価の波がないよう注視したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	3.2 (3)	1.1 (1)	11.6 (11)	12.6 (12)	23.2 (22)	23.2 (22)	12.6 (12)	11.6 (11)	1.1 (1)	[学生] 質問1～3に関しては評価の山が高いところにある。授業への取り組みと、授業外での学習も高い評価が続いていることが読み取れる。引き続きこの分布値を維持したい。
	3.2 (3)	11.6 (11)	18.9 (18)	29.5 (28)	25.3 (24)	9.5 (9)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	8.4 (8)	9.5 (9)	12.6 (12)	21.1 (20)	22.1 (21)	13.7 (13)	11.6 (11)	
	11.6 (11)	13.7 (13)	25.3 (24)	20.0 (19)	17.9 (17)	6.3 (6)	4.2 (4)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	5.3 (5)	8.4 (8)	17.9 (17)	20.0 (19)	21.1 (20)	13.7 (13)	11.6 (11)	[授業[内容]] 質問4に関してはA評価の山が少し低い。学生が自己評価を厳しくとらえていることも考えられる。自信をもってシラバスの到達目標を達成できるよう、授業者と課題を共有していきたい。
	10.5 (10)	17.9 (17)	22.1 (21)	30.5 (29)	10.5 (10)	8.4 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	2.1 (2)	3.2 (3)	15.8 (15)	20.0 (19)	14.7 (14)	17.9 (17)	15.8 (15)	8.4 (8)	2.1 (2)	
	3.2 (3)	6.3 (6)	17.9 (17)	20.0 (19)	17.9 (17)	24.2 (23)	9.5 (9)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (6)	6.3 (6)	15.8 (15)	25.3 (24)	24.2 (23)	16.8 (16)	5.3 (5)	
	6.3 (6)	16.8 (16)	30.5 (29)	24.2 (23)	11.6 (11)	10.5 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.1 (2)	1.1 (1)	5.3 (5)	6.3 (6)	18.9 (18)	15.8 (15)	26.3 (25)	16.8 (16)	7.4 (7)	
	7.4 (7)	15.8 (15)	32.6 (31)	20.0 (19)	17.9 (17)	4.2 (4)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.1 (1)	1.1 (1)	2.1 (2)	4.2 (4)	7.4 (7)	9.5 (9)	14.7 (14)	22.1 (21)	24.2 (23)	13.7 (13)	[授業[教え方等]] 授業の教え方を評価する質問7～9に関してはA評価の分布値が特に高く、教員の「説明」「話し方」「授業の進め方」に対しての肯定感が見て取れる。学科専門科目には教員養成課程として指導法に関する授業も多いことから、教え方の評価が高いことはよい。引き続きこの評価を維持していきたい。
	14.7 (14)	26.3 (25)	23.2 (22)	18.9 (18)	12.6 (12)	3.2 (3)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.1 (1)	1.1 (1)	3.2 (3)	3.2 (3)	6.3 (6)	10.5 (10)	14.7 (14)	20.0 (19)	26.3 (25)	13.7 (13)	
	13.7 (13)	24.2 (23)	30.5 (29)	15.8 (15)	13.7 (13)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.1 (1)	1.1 (1)	4.2 (4)	2.1 (2)	7.4 (7)	14.7 (14)	15.8 (15)	21.1 (20)	18.9 (18)	13.7 (13)	
	12.6 (12)	21.1 (20)	27.4 (26)	18.9 (18)	13.7 (13)	5.3 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	4.2 (4)	6.3 (6)	4.2 (4)	25.3 (24)	27.4 (26)	23.2 (22)	8.4 (8)	[環境・設備等] 大学内に分散している演習科目の専用教室の設備は古さを感じている。定員増によって、各学年120人になっているので、メインで利用している8号館5階はフロア全体で窮屈になっている。8号館5階の休憩時間はトイレの利用者が集中するので、数の不足が指摘されている。図書館は利便性が高い。
	10.5 (10)	27.4 (26)	30.5 (29)	18.9 (18)	9.5 (9)	3.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	2.1 (2)	0.0 (0)	6.3 (6)	10.5 (10)	18.9 (18)	22.1 (21)	27.4 (26)	8.4 (8)	4.2 (4)	
	5.3 (5)	14.7 (14)	23.2 (22)	28.4 (27)	17.9 (17)	7.4 (7)	3.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員養成課程という特性から、教員の教え方については期待が高いと考えられる。アンケートに関してはよい状態が続いているが、評価のポイントを維持できるよう、協議会や教員間の情報共有により授業全体の状況把握に努めたい。

4.今後の方針

再課程認定による科目の変更や、保育士養成課程の見直し、取得できる資格の見直し、定年退職による科目担当者の変更など、今後、授業担当者やコマの変化が数年続くので、評価に大きな変化がないよう、分布値や各科目のコメントに注意を払いたい。

1.概評

おおむね傾向は旧来通りであるが、全般的に若干の評価の上昇が確認された。全学との比較でみると、授業内容、教え方に関しての評価はほぼ同様であるが、学生の授業の取り組み評価は比較的高い。学生の取り組み意欲に対応すべく、さらなる授業内容の向上に努めていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (6)	11.3 (16)	23.4 (33)	28.4 (40)	18.4 (26)	9.9 (14)	4.3 (6)	[学生] A+B の評価率(%)は、H30前期／H29 前期において設問 1 (96.3/96.9)、設問2(97.3/96.7)、設問3(96.7/96.4)、設問4(94.7/94.4)で概ね微増となっているが、シラバスでの授業確認の項目は若干下がっている。 これより学生への授業内容の周知等に関しては、学科で行うガイダンス、初回授業での説明等により、概ね良く伝達されているものと考え。授業外学習に関しては、各授業内で課題量を調整するなどし、より一層の学習時間の確保に努めたい。
	3.5 (5)	12.1 (17)	22.7 (32)	33.3 (47)	19.9 (28)	6.4 (9)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.1 (3)	5.0 (7)	15.6 (22)	20.6 (29)	22.0 (31)	19.1 (27)	11.3 (16)	4.3 (6)	
	3.5 (5)	11.3 (16)	19.9 (28)	25.5 (36)	22.0 (31)	13.5 (19)	4.3 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	5.0 (7)	4.3 (6)	15.6 (22)	29.8 (42)	18.4 (26)	18.4 (26)	7.8 (11)	
	7.8 (11)	17.0 (24)	26.2 (37)	31.9 (45)	8.5 (12)	6.4 (9)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.7 (1)	0.7 (1)	5.7 (8)	14.9 (21)	22.7 (32)	23.4 (33)	14.9 (21)	9.9 (14)	5.7 (8)	1.4 (2)	
	2.1 (3)	5.7 (8)	9.9 (14)	20.6 (29)	26.2 (37)	27.0 (38)	6.4 (9)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.7 (1)	2.8 (4)	3.5 (5)	9.2 (13)	18.4 (26)	24.1 (34)	23.4 (33)	12.8 (18)	5.0 (7)	[授業[内容]] A+B の評価率(%)は、H30前期／H29前期において設問 5(97.0/96.6)、設問6(93.3/93.1)といずれも微増の結果となった。これより昨年度同様、各教員にはなお一層の授業内容の明確化、伝達方法の工夫をお願いし、更なる授業内容の向上に努めたい。
	5.0 (7)	10.6 (15)	29.1 (41)	23.4 (33)	18.4 (26)	9.9 (14)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.4 (2)	0.7 (1)	7.8 (11)	8.5 (12)	14.2 (20)	17.0 (24)	18.4 (26)	18.4 (26)	8.5 (12)	5.0 (7)	
	5.0 (7)	8.5 (12)	24.1 (34)	26.2 (37)	19.1 (27)	11.3 (16)	4.3 (6)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	
7	0.7 (1)	2.8 (4)	5.7 (8)	3.5 (5)	8.5 (12)	16.3 (23)	17.7 (25)	19.9 (28)	15.6 (22)	9.2 (13)	[授業[教え方等]] A+B の評価率(%)は、H30前期／H29前期において設問 7(94.0/93.8)、設問8(94.6/94.3)、設問9(93.3/93.0)と各設問ともに微増となった。これより教員の努力はもちろん、継続的な授業公開等の成果が表れているものと考え、引き続きさらなる授業運営の工夫に努めたい。
	9.9 (14)	17.0 (24)	22.0 (31)	24.1 (34)	14.9 (21)	7.8 (11)	2.8 (4)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.1 (3)	6.4 (9)	3.5 (5)	7.1 (10)	17.7 (25)	13.5 (19)	21.3 (30)	18.4 (26)	9.9 (14)	
	10.6 (15)	17.7 (25)	24.8 (35)	19.1 (27)	17.0 (24)	7.8 (11)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.4 (2)	2.8 (4)	4.3 (6)	5.7 (8)	12.1 (17)	15.6 (22)	17.0 (24)	21.3 (30)	14.9 (21)	5.0 (7)	
	5.0 (7)	14.9 (21)	26.2 (37)	23.4 (33)	17.7 (25)	10.6 (15)	0.7 (1)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.1 (3)	1.4 (2)	9.9 (14)	17.7 (25)	22.0 (31)	24.8 (35)	13.5 (19)	8.5 (12)	[環境・設備等] A+B の評価率(%)は、H30前期／H29前期において設問 10(95.1/94.8)、設問11(90.3/89.6)といずれも微増となった。設問10 の学習環境に関しては、教室に対する学生数の過密状況が具体的コメントとしても記載されており、開設科目の曜講調整ならびに開設コマ数の調整などにより、状況改善に努めたい。
	9.9 (14)	19.1 (27)	27.7 (39)	22.0 (31)	14.9 (21)	6.4 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.7 (1)	3.5 (5)	12.1 (17)	22.7 (32)	26.2 (37)	20.6 (29)	8.5 (12)	4.3 (6)	1.4 (2)	
	1.4 (2)	8.5 (12)	17.7 (25)	30.5 (43)	26.2 (37)	15.6 (22)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、演習科目が多いことが特徴であるが、少人数クラスであるため、演習科目の評価は相対的に高い。教員と学生の距離が近く、適切なアドバイスを受けたことを評価するコメントも多々みられる。

一方、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっており、このため入学生の中には高校において理数系科目をほとんど履修せずに入学してきた学生も少なくない。しかし学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ傾向として低評価となっている。この傾向自体は例年通りであるものの、一部の科目において特に評価が低い科目が散見されたため、これらに関しては何らかの対策を行っていきたい。しかし、このような授業であっても、教員の授業の工夫などにより、「わかりやすい」「おもしろい」等の評価をしているコメントも散見され、そのような授業を公開することにより、教員全体として、あるいは関連科目の教員同士、指導方法等に関して議論する場を持ち、よりわかりやすい授業運営のための工夫を行っていきたい。

4.今後の方針

昨年度に引き続き、学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関して、偏りが生じないようにクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性について説明し、講義科目の習熟度を向上させる取り組みを徹底したい。

また、現在学科で動き始めているリカレントエデュケーションプロジェクトを通して、新しい授業の運営方法、教え方等を環境の教員全体で学び、よりよい授業展開をしてきたい。

1.概評

今学期は、前学期と比較して同程度の評価であった。学生自身がシラバスの確認や積極的な授業参加など、意欲的に臨む傾向にあった。また、課題やレポート作成など、授業外学習に関しても真面目に取り組む姿勢を感じられた。管理栄養士免許取得のための資格関連科目が多いことから、詰め込み型の授業になりがちであるが、公衆衛生の諸問題などをテーマに問題解決策をプレゼンテーションするといった、アクティブラーニングなども盛んに行われるようになってきた。今後もより一層、自ら積極的に学ぶ姿勢を養うことができるような取り組みや授業展開が必要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	1.4 (1)	17.1 (12)	25.7 (18)	24.3 (17)	18.6 (13)	8.6 (6)	4.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] 管理栄養学科で開設されている科目の多くは、管理栄養士国家試験受験資格取得のための選択必修科目である。そのため、積極的な授業参加や授業外学習、到達目標の達成については比較的高い評価であった。カリキュラム構成がかなりタイトであることを考えると、学生たちは十分取り組んでいると評価できる。今後も、事前に授業内容を確認することで学びが深まるため、シラバスの確認をするよう指導する。
	0.0 (0)	1.4 (1)	4.3 (3)	14.3 (10)	27.1 (19)	30.0 (21)	22.9 (16)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	7.1 (5)	15.7 (11)	24.3 (17)	24.3 (17)	17.1 (12)	7.1 (5)	4.3 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	2.9 (2)	11.4 (8)	18.6 (13)	27.1 (19)	24.3 (17)	14.3 (10)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	5.7 (4)	7.1 (5)	17.1 (12)	25.7 (18)	14.3 (10)	17.1 (12)	7.1 (5)	5.7 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	7.1 (5)	11.4 (8)	14.3 (10)	22.9 (16)	30.0 (21)	10.0 (7)	4.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.4 (1)	7.1 (5)	18.6 (13)	21.4 (15)	28.6 (20)	14.3 (10)	5.7 (4)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (3)	7.1 (5)	20.0 (14)	34.3 (24)	22.9 (16)	8.6 (6)	2.9 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	2.9 (2)	5.7 (4)	15.7 (11)	21.4 (15)	28.6 (20)	14.3 (10)	5.7 (4)	5.7 (4)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業内容については、比較的理解度は高かった。シラバスに則った内容展開であるため、学生たちの自学自習についてもスムーズに行われ、理解度も高まったものとする。
	0.0 (0)	4.3 (3)	8.6 (6)	15.7 (11)	32.9 (23)	25.7 (18)	7.1 (5)	4.3 (3)	1.4 (1)	0.0 (0)	
6	1.4 (1)	0.0 (0)	10.0 (7)	25.7 (18)	15.7 (11)	21.4 (15)	17.1 (12)	2.9 (2)	4.3 (3)	1.4 (1)	
	1.4 (1)	4.3 (3)	5.7 (4)	17.1 (12)	31.4 (22)	20.0 (14)	14.3 (10)	5.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.4 (1)	10.0 (7)	18.6 (13)	17.1 (12)	12.9 (9)	15.7 (11)	14.3 (10)	7.1 (5)	2.9 (2)	[授業[教え方等]] 授業の教え方に対する評価は、「明快である」、「よく聞き取れる」が高い評価であった。「授業の進め方」においても、概ね高い評価であったが、授業内容によって異なるが、教員と学生間の双方向の理解度の確認が必要と考えられる。1年次より、4年後の管理栄養士国家試験を見据えて、国家試験問題などを各教科の理解度確認に用いるなどの工夫を行っていく必要がある。
	2.9 (2)	8.6 (6)	18.6 (13)	21.4 (15)	18.6 (13)	14.3 (10)	12.9 (9)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.4 (1)	1.4 (1)	18.6 (13)	18.6 (13)	15.7 (11)	20.0 (14)	11.4 (8)	10.0 (7)	2.9 (2)	
	4.3 (3)	10.0 (7)	18.6 (13)	17.1 (12)	22.9 (16)	15.7 (11)	10.0 (7)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.4 (1)	10.0 (7)	22.9 (16)	15.7 (11)	11.4 (8)	18.6 (13)	8.6 (6)	7.1 (5)	4.3 (3)	
	4.3 (3)	7.1 (5)	12.9 (9)	21.4 (15)	21.4 (15)	18.6 (13)	11.4 (8)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	8.6 (6)	5.7 (4)	21.4 (15)	14.3 (10)	34.3 (24)	8.6 (6)	4.3 (3)	2.9 (2)	[環境・設備等] 教室の広さに関しては、十分でないと感じている学生も少なくない。プロジェクタースクリーンの配置が板書用の黒板と重なってしまう教室もあり、見えにくいという声も挙がっている。実験・実習室に関しては、設備が古い、狭い、見えにくいといった声が挙がっているが、現在、老朽化にともない施設・設備の改修が進んでおり、今後、改善されると考える。学生たちが安全に実験・実習を行える環境整備を今後も願いたい。
	2.9 (2)	4.3 (3)	21.4 (15)	31.4 (22)	18.6 (13)	15.7 (11)	2.9 (2)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.4 (1)	10.0 (7)	25.7 (18)	28.6 (20)	18.6 (13)	10.0 (7)	4.3 (3)	1.4 (1)	0.0 (0)	
	1.4 (1)	0.0 (0)	8.6 (6)	15.7 (11)	40.0 (28)	21.4 (15)	10.0 (7)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

管理栄養士に必要な基礎知識である化学や生物学の学力向上のために、現在行っている入学前教育（化学）及び、入学時の化学・生物のプレ
スメントテストを今後も継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行ってゆく。また、管理栄養士の主な活躍の場である病院ではチーム医
療が行われており、コミュニケーション力や専門用語として医学英語のスキルが必要とされることが多い。又国際的な保健・食糧機関で活躍
できる管理栄養士養成には高い英語力が必要とされる。そこで、平成26年度から専門科目としての「科学英語(食品と栄養学を学ぶために)」を
2年次に開設している。この科目は専門英語の教育のみならず、国際的な公衆衛生問題をトピックにアクティブラーニングを行い、グローバ
ルな視点での学びを行っている。また4年次には、国家試験対策として、e-ラーニングを導入し、積極的に学生自身がアクセスする環境を設定し
ている。学生の関心は高く、少しずつ参加率も上がり効果が高かったと考え、本年度も継続しまた強化していく。

4.今後の方針

管理栄養学科では、ほとんどの学生が管理栄養士国家試験合格を目指し学修している。そのため学生の勉学への意欲は高い。また、資格関連
科目のみならず、健康美プロジェクトなど大学内でのプロジェクト活動にも積極的に参加する学生も増えてきた。今後もプロジェクト活動へ
の参加も推進していく。さらに、「人間と社会生活」、「科学英語」においては、グローバルヘルス、ユニバーサル・ヘルス・ガバレージ、
2020年度開催予定の栄養サミット等の観点から、昨年度より、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030ア
ジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である持続可能な開発目標（SDGs）に関する教育を行っている。グループディ
スカッションや小冊子の制作等を通して、自らの専門性や他業種とのパートナーシップを活かして、国際社会に対してどのような貢献が可能
か実践的に学んでいることから、今後もグローバルな視点に立った、管理栄養士養成を推進する。

1.概評

質問1～11のうち、質問3を除く全てにおいて、良い評価の割合が昨年度よりも上昇した（質問3は0.2%の低下）。健康デザイン学科の評価は年々上昇傾向にあるが、今年度前期は、特に質問7～9、すなわち「教え方等」の項目において顕著な上昇がみられた。一方で、例年通り、低学年に開講されている基礎科目において学生の理解度がやや低い傾向が見られた。上級学年の演習科目や、領域科目では理解度が高い傾向が見られた。低学年での理解をより深められるよう、アクティブラーニングなどを取り入れるなどの方策が必要かもしれない。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	20.0 (12)	11.7 (7)	16.7 (10)	15.0 (9)	20.0 (12)	6.7 (4)	10.0 (6)	0.0 (0)	【学生】 健康デザイン学科の学生は必修科目が多いためか、以前はシラバスを確認する学生が少なかったが、年々シラバスを確認する学生が増えてきている。「シラバスに則った授業や成績評価をする」という意識が学生にも教員にも定着してきているからかと思われる。授業に積極的に参加した学生、シラバスの到達目標を達成できた学生も多く、良い傾向が続いている。
	1.7 (1)	6.7 (4)	10.0 (6)	21.7 (13)	23.3 (14)	20.0 (12)	16.7 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (5)	23.3 (14)	10.0 (6)	15.0 (9)	21.7 (13)	11.7 (7)	8.3 (5)	1.7 (1)	
	1.7 (1)	6.7 (4)	16.7 (10)	21.7 (13)	10.0 (6)	20.0 (12)	21.7 (13)	1.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.7 (1)	6.7 (4)	13.3 (8)	16.7 (10)	13.3 (8)	20.0 (12)	13.3 (8)	10.0 (6)	5.0 (3)	
	3.3 (2)	11.7 (7)	18.3 (11)	18.3 (11)	16.7 (10)	23.3 (14)	6.7 (4)	1.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	5.0 (3)	16.7 (10)	11.7 (7)	18.3 (11)	23.3 (14)	10.0 (6)	10.0 (6)	5.0 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	5.0 (3)	11.7 (7)	13.3 (8)	18.3 (11)	21.7 (13)	23.3 (14)	6.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	1.7 (1)	0.0 (0)	3.3 (2)	16.7 (10)	8.3 (5)	23.3 (14)	16.7 (10)	15.0 (9)	15.0 (9)	0.0 (0)	【授業[内容]】 授業はシラバスに記載されている内容で実施され、学生はその授業内容をしっかりと理解しているという評価であった。今年度前期は、特に「授業内容の理解」についての評価が顕著に上昇した。これは、FD講演会などにより各教員の授業内容が改善されただけでなく、新任教員の授業の評判がかなり良かったためでもある。
	1.7 (1)	10.0 (6)	21.7 (13)	21.7 (13)	18.3 (11)	10.0 (6)	16.7 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	3.3 (2)	18.3 (11)	6.7 (4)	10.0 (6)	13.3 (8)	21.7 (13)	15.0 (9)	8.3 (5)	3.3 (2)	
	3.3 (2)	13.3 (8)	13.3 (8)	21.7 (13)	13.3 (8)	20.0 (12)	13.3 (8)	1.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.7 (1)	3.3 (2)	10.0 (6)	8.3 (5)	8.3 (5)	13.3 (8)	8.3 (5)	26.7 (16)	13.3 (8)	6.7 (4)	【授業[教え方等]】 例年通り、科目により評価が大きく分かれた。低学年の基礎講義科目では評価がやや低く、上級学年での応用的な演習科目などでは評価がやや高かった。高校での履修に差があることから（化学を履修していない学生が多い）、このような評価になったものと考えられる。また、健康デザイン学科では2年生の前期に授業が相当集中していることから、学生が落ち着いて理解を深めるのが難しい状況が続いている。今後のカリキュラム編成の際に、改善を試みたい。
	6.7 (4)	15.0 (9)	26.7 (16)	10.0 (6)	16.7 (10)	15.0 (9)	10.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.7 (1)	1.7 (1)	11.7 (7)	6.7 (4)	8.3 (5)	11.7 (7)	11.7 (7)	23.3 (14)	15.0 (9)	8.3 (5)	
	8.3 (5)	16.7 (10)	21.7 (13)	15.0 (9)	18.3 (11)	11.7 (7)	8.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	3.3 (2)	1.7 (1)	8.3 (5)	10.0 (6)	13.3 (8)	8.3 (5)	13.3 (8)	25.0 (15)	10.0 (6)	6.7 (4)	
	5.0 (3)	13.3 (8)	25.0 (15)	18.3 (11)	16.7 (10)	13.3 (8)	8.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	3.3 (2)	11.7 (7)	15.0 (9)	11.7 (7)	20.0 (12)	18.3 (11)	15.0 (9)	5.0 (3)	【環境・設備等】 学習環境については良い評価であった。栄養士必修科目は原則40名以下で実施されているためであると考えられる。以前は、図書館には参考書が揃っていないとの指摘も多く見られたが、近年は改善傾向にある。これは、以前は「そもそも図書館に参考書が揃っていない」というよりも、どの参考書が参考になるのかが分からないという状況であったが、近年は、教員からのアドバイスなども増えてきたからであると思われる。
	5.0 (3)	20.0 (12)	18.3 (11)	18.3 (11)	16.7 (10)	13.3 (8)	8.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.7 (1)	6.7 (4)	20.0 (12)	10.0 (6)	21.7 (13)	20.0 (12)	13.3 (8)	5.0 (3)	1.7 (1)	
	0.0 (0)	10.0 (6)	13.3 (8)	28.3 (17)	13.3 (8)	16.7 (10)	16.7 (10)	1.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

健康デザイン学科はいわゆる「理系」の学科であるが、学生の高校時代の履修状況に差がある（特に化学を履修していない学生が多い）。そのため、低学年で実施される基礎講義科目については、学生自身の授業内容の理解や、教員の教え方に対する評価が低い傾向が見られる。上級学年の応用的な演習科目などになると授業内容の理解も深まっている評価がなされているが、これは、理解が深まっていると感じているだけの可能性もある。基礎科目の理解は応用科目のより深い理解に繋がるため、今度も基礎科目の理解をどのようにして深めていくか考えていく必要がある。

4.今後の方針

学生がより積極的に授業に参加し、低学年から上級学年全てにおいて授業の理解を深めていくために、以下の方策が必要であるとする。

（1）低学年での基礎科目を充実させる。これは、単に授業数を増やせば良いということではなく、授業数を減らし授業外での学習時間を増やすなど、柔軟な対応を考えている。（2）低学年のみならず、全ての授業において授業外学習時間を増やすための方策が必要である。そのためには、現在2年前期に集中している授業を分散するなど、学生の物理的な負担も軽減する必要がある。（3）実験実習、卒業研究のさらなる充実に向けて、内容の改善と機器備品をより充実させる必要がある。（4）学科内での情報交換を進める。

1.概評

本年度は、学生自身の評価も、学生から見た授業内容、教授法、環境、いずれも非常に評価が高かった。一期生の要望と期待を教員も真摯に受け止め、授業改善がされ、学科の歯車が噛み合ってきたのだらうと推察する。二期生からの評価も高いことを考えると、学科の基礎教育は良い方向に向かっていると考えられる。今後、学生が高学年に進むにつれ、専門性も分かれてくるが、学生、教員相互の理解を常に深める努力をすることが肝要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (1)	22.7 (5)	36.4 (8)	22.7 (5)	13.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] 全体的に見て非常に評価が高いことがわかる。授業内容に対する期待が高く、授業も熱心に取り組む学生が多いと推察され大変嬉しいことである。
	0.0 (0)	0.0 (0)	13.6 (3)	27.3 (6)	22.7 (5)	31.8 (7)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (2)	4.5 (1)	22.7 (5)	31.8 (7)	18.2 (4)	13.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	18.2 (4)	31.8 (7)	22.7 (5)	22.7 (5)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (1)	13.6 (3)	13.6 (3)	22.7 (5)	27.3 (6)	18.2 (4)	0.0 (0)	
	4.5 (1)	13.6 (3)	31.8 (7)	27.3 (6)	13.6 (3)	9.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	9.1 (2)	13.6 (3)	31.8 (7)	9.1 (2)	31.8 (7)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	18.2 (4)	27.3 (6)	27.3 (6)	27.3 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (2)	13.6 (3)	27.3 (6)	18.2 (4)	22.7 (5)	9.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業の理解度も非常に高い。これは、教員がベテランぞろいで、ポイントが明確であるということと考えられるが、一方で、教員の設定する目標、授業内容が、学生の期待より低い可能性も否定できない。今後の検討課題である。
	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (2)	22.7 (5)	31.8 (7)	31.8 (7)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	4.5 (1)	4.5 (1)	18.2 (4)	9.1 (2)	13.6 (3)	27.3 (6)	22.7 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	27.3 (6)	54.5 (12)	9.1 (2)	9.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	4.5 (1)	4.5 (1)	9.1 (2)	13.6 (3)	27.3 (6)	13.6 (3)	18.2 (4)	4.5 (1)	0.0 (0)	4.5 (1)	[授業[教え方等]] 評価はおおむね良好であった。高評価の教員は常日頃から声が聞き取りやすく、主語述語が明快である方で、これらは教える上で重要な要素であることがわかる。ただし、今はマイクやパワーポイントなどの活用で、教授法も向上しているため、教員の工夫・努力が高評価につながったものとする。
	0.0 (0)	4.5 (1)	13.6 (3)	22.7 (5)	50.0 (11)	9.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	4.5 (1)	4.5 (1)	0.0 (0)	13.6 (3)	36.4 (8)	9.1 (2)	18.2 (4)	9.1 (2)	0.0 (0)	4.5 (1)	
	0.0 (0)	4.5 (1)	13.6 (3)	31.8 (7)	36.4 (8)	13.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	4.5 (1)	4.5 (1)	9.1 (2)	22.7 (5)	18.2 (4)	9.1 (2)	22.7 (5)	4.5 (1)	0.0 (0)	4.5 (1)	
	0.0 (0)	4.5 (1)	9.1 (2)	45.5 (10)	27.3 (6)	9.1 (2)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (1)	4.5 (1)	13.6 (3)	18.2 (4)	36.4 (8)	18.2 (4)	0.0 (0)	4.5 (1)	[環境・設備等] 食安全マネジメント学科は9号館での授業も多く、学習環境はとても良好であると高く評価されており、教員にとっても大変ありがたいことと感じている。図書についても満足度は高い。
	0.0 (0)	4.5 (1)	40.9 (9)	31.8 (7)	18.2 (4)	4.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (1)	13.6 (3)	27.3 (6)	22.7 (5)	22.7 (5)	4.5 (1)	4.5 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.5 (1)	4.5 (1)	27.3 (6)	50.0 (11)	13.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科開設2年目である。1年次向け授業の評価が軒並み向上しており、教員が昨年度の反省を踏まえ、授業改善がなされていることがうかがえる。一方、2年次学生向けの授業も平均して高い評価である。先輩がいない中で、一期生が学習法を模索してきたその結果が示されていると判断できる。今後は、学生の伸びしろに合わせ、各授業担当者が、もう一段、高いところに目標を置くべきであると考えます。

4.今後の方針

食安全マネジメント学科では、セメスターの開始前に授業での学習内容を教員間で共通理解する時間を設けている。そこでは、重要なことは何度でも繰り返し教えることを提案する一方、他科目との連携でトピックスを幅広く提示することなど、教員間で学生教育について意見交換をしている。今後は、より高い目標設定が必要であることを提案し、検討を行いたい。また、次年度からはビジネス・マネジメント系の科目も増えることから、学科設定の設問についても検討し、学生の興味関心を拾い上げる努力も払いたい。